

自主財源

自主財源は全体の23.9%にすぎず、厳しい財政事情は以前から変わりません。村税（個人村民税）は、農業所得の落ち込みを見込み、前年度より4,100万円減額しました。

地方交付税

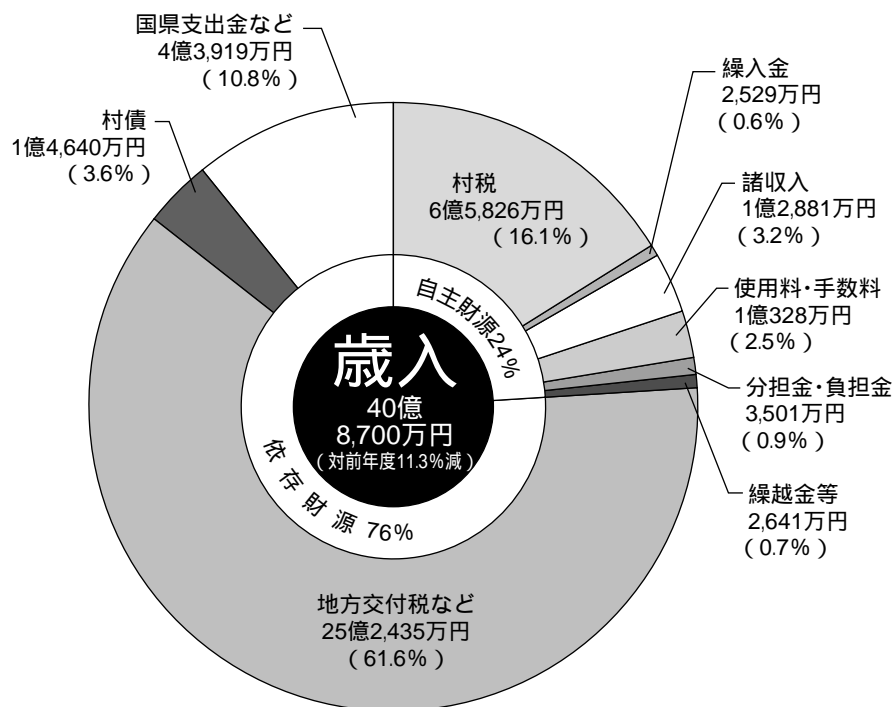
国が集めた税金の一部が、国の算定によって配分されます。金額の確定は7月になりますが、国勢調査人口の大幅な減少などによっておよそ1億円の減額を見込みました。

* 実質の交付税といわれている臨時財政対策債（実際は村債ですが、あとで交付税に全額算入）も地方交付税に含めています。

* 歳入の円グラフの地方交付税などには、国から交付される地方譲与税や地方消費税交付金などを含んでいます。

村債（借金）

7月完成予定の防災無線整備に8,080万円、道路整備に1,550万円、除雪機械購入に1,200万円など、総額で1億4,640万円を借り入れます。しかし、返済金の元金・利子のほとんどが、あとから地方交付税で手当てされるため、村の実際の借金は4,200万円ほどです。

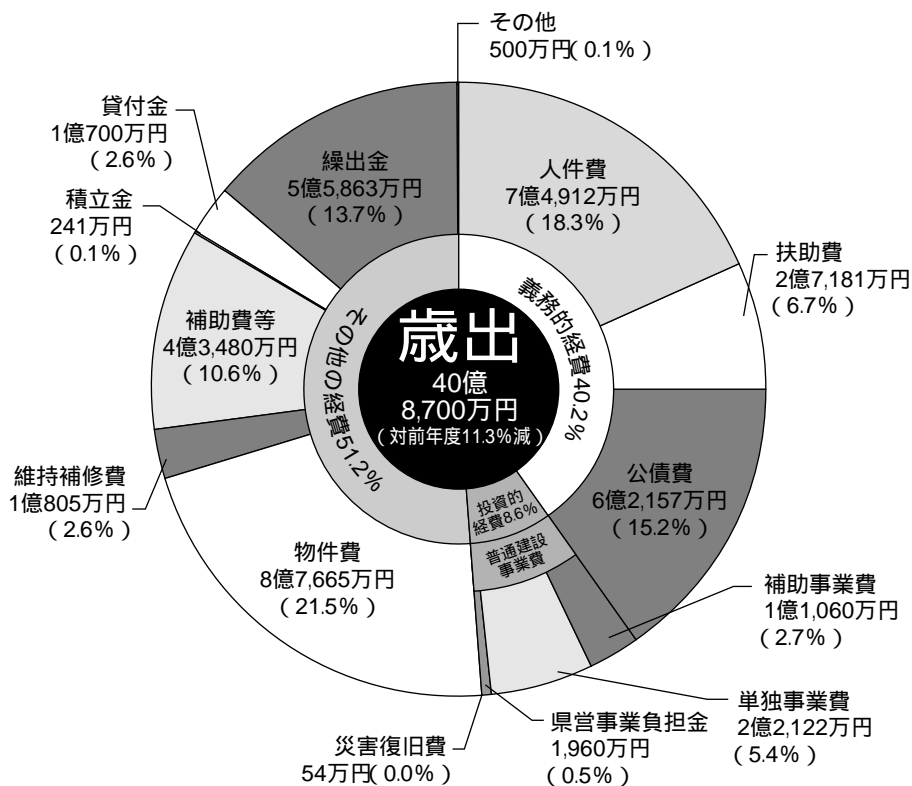


人件費

村の職員は、退職者6人に対し4人の補充（新採用）に留めましたが、村議会議員の年金制度廃止に伴う一時的な村負担が増えるため、前年度とほぼ同額となっています。人件費には、消防団や各種委員の報酬も含まれています。

繰出金

下水道会計や水道会計など、料金収入で賄いきれない特別会計に対して支出するものです。この金額が年々膨らみ、一般会計を圧迫しています。そのほか、繰出金には国保会計、後期高齢者医療会計、介護会計などに対する、法律に基づいた村の負担金も含まれています。



22年度繰越事業でも

集落要望に対応

国の平成22年度第1次補正によって村に配分された交付金事業のほとんどは、平成23年度への繰越事業として行います。予算総額は7,400万円。国からの交付金に村の財源1,000万円を足して実施します。

内容は、道路改良や道路側溝布設替え、消雪パイプ修繕など。通常の村予算では手がつけられない集落要望などに対応します。

関川中体育館建て替え

築45年が経過した関川中学校体育館を建て替えます。広さは現在の体育館よりも少し広めの1,387㎡（1階床面積）。2階には幅2m、1周140mのランニングスペースを設けます。

4月7日の入学式後に解体作業をはじめ、年度内の少しでも早い完成を目指します。

事業費は、設計費、解体費、建築費の総額で4億7,000万円。国の補助金と有利な村債（借金）を活用し、村の実質の持ち出しは1億円あまりに抑えます。



現在の体育館

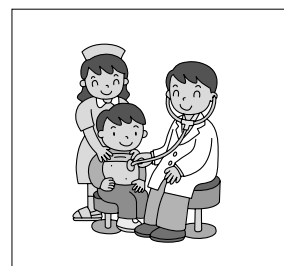


除雪経費は、消雪パイプ電気料や業者委託料など八千六百万円を計上。老朽化したロータリー除雪車を三千七百万円で買い替えます。

道路の修繕や消雪パイプの布設替えなどの工事費は、八千五百万円を確保。沢地内、蛇喰地内の道路拡幅を行うほか、老朽化の程度や必要性の高い箇所予算配分しました。前年度からの繰越事業と合わせて工事を行います。

予算の使いみち

平日夜間の急患診療に対応



医療

平日夜間の急患診療（内科・小児科）を村上市に委託します。これは、現在の休日急患診療所（村上市若葉町一〇七）の診療体制を拡充するもので、村民が安心できる地域医療体制を確保します。三十

万円を計上し、診察人数に応じて経費を負担します。（開設は六月一日の予定。詳しくは今後の広報お知らせ版で）また、村上総合病院の休日診療体制の補助金に百五十万円を計上しました。

予防接種の費用には千八百六十万円を計上し、手厚く助成します。幼児の細菌性髄膜炎による死亡や障害発症を予防するヒブワクチンと、小児肺炎球菌ワクチンの接種費用を全額助成。（実施は一時見



公共事業

老朽消雪パイプなどを修繕

合わせ）中学一年生女子を対象とした子宮けいがん予防ワクチン接種費や、妊婦健診費も全額助成します。女性の乳がん、子宮がん検診費用は節目の方を対象に無料とし、予防対策に力を入れます。

昨年度「中学校卒業まで」対象者を拡充した子ども通院・入院医療費の助成を継続し、千七百六十万円を計上。通院一回五百三十円、五回目以降は無料、入院は一回千二百円の自己負担とします。